

< 様式 2 > . . . 畜産試験場試験・研究課題事前評価表  
 . . . 畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名： 豚の改良増殖

小課題名： 新系統豚の維持と増殖、新系統豚の組合せ検定  
 ランドレース種「フジザクラ」の開放型育種による改良

細目課題名：

担当者名： 赤尾 友雪

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 (背景、社会的ニーズ)	5 / 5	県産ブランドの維持に加え、さらに普及拡大するためには、三元肉豚の斉一性の改善と特徴付けが急務であり必要性は高い。
2 課題の新規性、独創性	4 / 5	県産ブランドの普及拡大のための課題で新規性はあまりないが、開放型育種システムは国内の事例がまだ少なく先駆的である。
3 目的・内容の整合性、 妥当性	5 / 5	現在普及拡大上の問題となっているのは斉一性の改善と特徴付けであり、その解決に向けた課題内容になっており整合性は高い。
4 研究手法の的確性、 技術的可能性	4 / 5	斉一性の改善と特徴付けのためには、2分の1の影響力がある雄系として現在開発中の新系統豚を活用することは効果的で妥当である。
5 成果の期待度	5 / 5	開発中の新系統豚は雄系で肉質も改良しており、斉一性に加え肉質も優れた三元肉豚の生産による良質な肉の安定供給が期待される。
総合評価	5 / 5	県産ブランドの普及拡大のための課題で新規性はあまりないが課題の必要性、整合性は高い。また新系統豚の活用で斉一性に加え肉質も優れた肉豚の安定生産への期待度も高く、優れた三元肉豚の早期実現を期待したい。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

今まで、県内の養豚農家から期待が大きかった新系統豚が来年完成する。新たな県産ブランド豚肉として、農家へ安定的に供給を図っていく必要がある。

< 様式 2 > . . . 畜産試験場試験・研究課題事前評価表  
 . . . 畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名： 畜産物の品質改善

小課題名： 機能性を有する美味しい鶏肉生産技術の開発

細目課題名：

担当者名： 松下 浩一

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 (背景、社会的ニーズ)	5 / 5	県産鶏肉の普及促進、消費拡大のためには、消費者にアピールする新たな付加価値が求められており、必要性は高い。
2 課題の新規性、独創性	5 / 5	機能性と美味しさを兼備した鶏肉生産という難度の高い課題への取組みで評価できる。特にイミダペプチドへの着目には新規性がある。
3 目的・内容の整合性、妥当性	5 / 5	イミダペプチドは機能性物質としての可能性が期待できることから、新たな機能性への取組みとして整合性がある。研究内容も妥当。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	4 / 5	ペプチド等の測定は必須なので共同研究も含め協力機関の確保が必要。内容に比べ期間が3年と短いため効率的な実験計画の立案が必要。
5 成果の期待度	5 / 5	付加価値の観点から機能性と美味しさを兼備した鶏肉生産への期待度は高い。また広くムネ肉の消費拡大にも役立つことが期待される
総合評価	5 / 5	課題の必要性、新規性、期待度は高い。研究手法は、難度の高い取組みであることから、研究期間が短い分、測定協力者の確保と実験計画について十分に検討し、成果が出るよう工夫する必要があるが、総合評価は高い。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

新たな機能性鶏肉の取り組みは共同研究機関と連携し、実施する。また、鶏肉のうまみ、香りについては過去の研究成果及び文献を参考に実施していく。